

発 言 通 告 書 要 旨 (1枚目/全3枚)

氏 名 荒谷 啓一

| 発言番号 | 発言事項及び発言要旨  | 備 考 |
|------|---|-----|
| 1    | <p>6月補正予算における「不断の事業見直し」について<br/>                     先の3月定例会では、加賀市再生プロジェクト検討会や事業継続評価の結果を踏まえ、当初予算に未計上でも継続が必要な事業については、補正予算に計上したいとのことであった。<br/>                     今回、これらの答申や評価結果も踏まえ、補正予算が計上されている。補正予算の全体概要では「不断の事業見直し」、市長提出議案説明では「ゼロベースでの不断の見直し」とあるが、その結果、廃止や今年度見送りと判断されたものにはどのような事業があるのか。款別に主な事業名と予算額を示せ。</p>  |     |
| 2    | <p>(1) 加賀市事業継続評価会（外部評価）について<br/>                     今後の案件の提出に対する考え方について<br/>                     4月の加賀市事業継続評価会（外部評価）で、芸妓活動支援事業と山中節振興会活動事業が内部評価の「廃止」に対し、継続を求める「再考」となった。しかし、この事業がそもそも外部評価に出されたことに問題があると考えられる。外部評価委員の質問に対し市は、「観光振興・誘客予算の観点では廃止としたが、文化継承の観点で重要である」旨の回答に終始したため、終了後、委員から「予算の振替も協議せず、単に観光課で廃止という内容は縦割りの典型であり、外部評価には適さない」との意見が聞かれた。<br/>                     特に本件は、当日・翌日と地元2紙に大きく取り上げられたことで「廃止」の言葉が一人歩きし、市内外の関係者に大きな波紋を呼んだ。事業見直しを図る市長の廃止の意向を、外部委員が差し戻したという認識である。関係者からは、一律の制度の在り方に疑問の声が相次ぎ、市に対するマイナスイメージと不信感だけが残ったように思われる。5月の総務経済委員会で総務部長は、「出し方に配慮が足らなかった」と釈明したが、不満の声は絶えない。<br/>                     今後、市として調整が必要な案件を外部評価に出す場合は、十分注意する必要があると考えるが、所見を問う。</p> |     |
|      | <p>(2) 芸妓文化・山中節の重要性について<br/>                     今回の案件に対し、加賀温泉郷としての芸妓文化・山中節の重要性を十分理解されており、さらなる「文化の磨き上げ」を提唱している市長の所見を問う。</p>   |     |
|      |   |     |

# 発 言 通 告 書 要 旨 (2枚目/全3枚)

氏 名 荒谷 啓一

| 発言番号 | 発言事項及び発言要旨  | 備 考 |
|------|---|-----|
| 3    | <p>(1) 加賀市立山中温泉地区会館等整備事業について<br/>山中温泉文化会館・山中児童センターの解体について</p> <p>昨年12月定例会で、市長から「これまでの方針どおり、来年度には建物の解体工事と並行して建物の設計を行っていきたい」との答弁があり、令和8年度当初予算において、それら一連の事業費が計上されていることで、山中温泉地区まちづくり推進協議会のみならず、山中の4地区の方々が今後の進捗に大きな期待を寄せているところである。</p> <p>現在、山中温泉文化会館と山中児童センターの解体工事に向け準備が進められているが、今後の計画について問う。</p>                                   |     |
|      | <p>(2) 新築工事実施設計に向けた整備検討会の設置について</p> <p>これまでの山中温泉地区会館整備検討会では、「山中温泉文化会館と山中児童センターを解体し、同じ場所で児童センターを併設した、新たな地区会館を整備する」ということを基本に、建物に必要な機能や規模、地域の防災拠点・避難所としての整備など、施設の概要や地元の意見などが報告書としてまとめられているが、詳細についてはまだこれからであると思われる。</p> <p>これまでの検討会は解散しているため、今後の解体工事と併せて行われる新築工事実施設計を円滑に進めていくためにも、新たな整備検討会を立ち上げ、詳細を詰めていく必要があると考えるが、今後の日程について問う。</p> |     |
| 4    | <p>児童発達支援センター「このゆびと一まれ山中」について</p> <p>山中温泉ぬくもり診療所は4月から、それまでの公益社団法人地域医療振興協会の指定管理から加賀市病院事業に編入となり、市直営となった。公益社団法人地域医療振興協会が自主事業として運営してきた児童発達支援センター「このゆびと一まれ山中」については、様々な経緯を経て、同協会が7月末まで4か月間の時限措置として、運営期間を延長している。</p> <p>市は7月末までにその事業継承について、市内の障害福祉サービス事業所などを有する法人や同協会とも調整を進めていくとのことであったが、進捗状況と今後の対応について問う。</p>                         |     |
|      |   |     |

発 言 通 告 書 要 旨 (3枚目/全3枚)

氏 名 荒谷 啓一

| 発言番号 | 発言事項及び発言要旨  | 備 考 |
|------|---|-----|
| 5    | <p>小・中学校における防犯カメラの整備について</p> <p>近年、全国各地で学校への不審者の侵入や施設へのいたずら、器物損壊などが発生し、学校における安全確保はますます重要な課題となっている。各学校では、不審者対応訓練や避難訓練の実施、来校者への声かけ、校内巡視など、日常的な安全対策の充実に努めている。教職員のみで学校施設全体の安全を常時見守ることには限界がある一方で、安全対策のさらなる充実が求められており、各地域で保護者や警察からも学校の防犯対策や安全管理の充実を望む声が寄せられていると聞く。</p> <p>このような状況を踏まえ、一部、地域の協力などで設置されている学校もあるが、学校施設の安全対策については、市として防犯カメラを含めた防犯設備の整備や運用の在り方について、計画を策定するべきではないか。防犯カメラは、不審者侵入の抑止や事故・事件発生時の状況確認などの効果が期待される。一方で、設置場所や運用方法、個人情報への配慮など、様々な観点からの検討も必要であることから、まずは、児童・生徒玄関や体育館玄関を最優先とすべきではないかと考える。</p> <p>現在、効率的な統廃合が検討される中、小中学校施設整備事業として、空調設備やLED化、トイレ洋式化などが進められているが、子供たちが安心して学び、保護者が安心して学校へ送り出すことのできる防犯環境の整備に対し、所見を問う。</p> |     |
| 6    | <p>グリーン・シティ山中最終処分場覆土事業費について</p> <p>加賀市公共施設マネジメント個別施設計画では、「グリーン・シティ山中は、平成30年度末まで旧山中町の不燃ごみや資源ごみ等を受入れていたが、現在は受入れを廃止し、加賀市環境美化センターで発生した焼却灰などの埋立てのみを行っている。埋立て終了後に施設を廃止する」という方針になっている。</p> <p>いよいよ、今回の補正予算で環境美化センター整備費として、グリーン・シティ山中最終処分場覆土事業費が計上されているが、これまでの経緯と事業概要、関係者への周知、跡地活用など、今後の予定について問う。</p>   |     |
|      |   |     |